

# 「児童生徒が 学びをつなぐ」 教育課程の編成

(1年次／2年計画)



令和4年度 研究報告

秋田県立ゆり支援学校



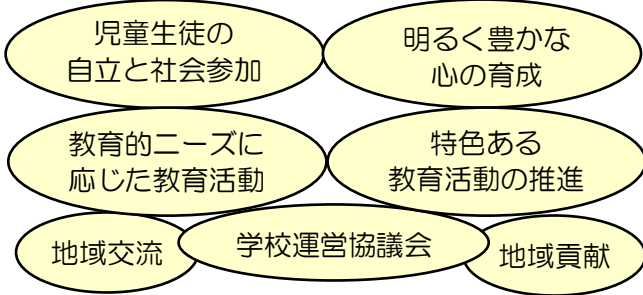
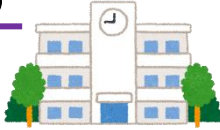
研究主題

「児童生徒が学びをつなぐ」教育課程の編成（1年次／2年計画）

問題と目的（主題設定の理由）

目指す学校像

「地域と共に歩み、地域で育ち、地域に必要とされるゆり支援学校」



社会的背景

中教審答申（令和3年1月）

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」



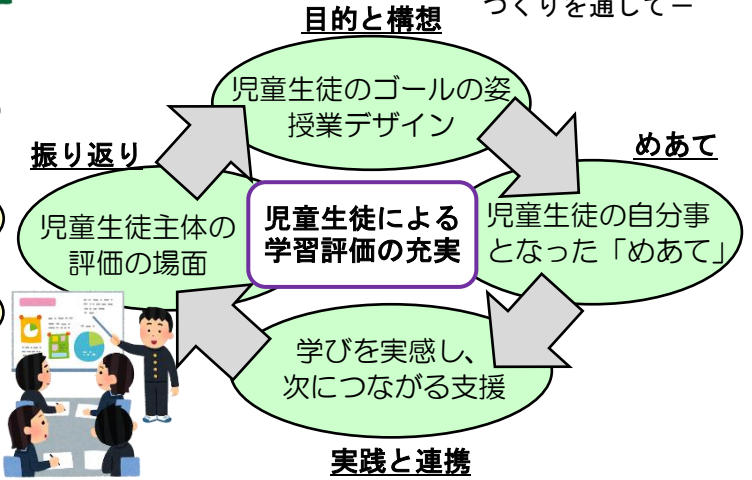
新学習指導要領の着実な実施

ICTの活用

昨年度までの研究の取組

「児童生徒による学習評価の充実」

－児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して－



学部	対象教科	○昨年度の研究成果 ●教育課程編成に向けての提言
小	国語科	○各教科等を合わせた指導と連携した授業づくり ●目指す姿に迫る基盤づくりと情報の共有
中	保健 体育科	○授業づくりの5つの視点の活用 ●3年間を見通した学習内容表の活用
高	職業科 家庭科	○学びをつなげる家庭や寄宿舎との連携の充実 ●各教科等との関連や系統性の整理

仮説

児童生徒が学びをつなぐ

各教科等の授業づくりを通して

教育課程の編成へ

教科ワーキンググループ（教科WG）を柱とした研究の推進

音楽科WG

学びがにつながる経験

職業・家庭科WG

学びの見通し

家庭や地域社会へ

保健体育科WG

学びの活用

次の学びへ

予測困難な社会の中で生きる力  
生涯、学び続ける児童生徒の育成



内容と方法（1年次）



A：実態把握

- ・「学びをつなぐ」ワークショップ
- ・授業づくりに関するアンケートⅠ



P：計画

- ・授業デザインミーティングⅠ
- ⇒年間指導計画、単元・題材計画の作成



D：授業実践

- ・全校、教科WG授業研究会
- ・教科WGの研究の推進



C、A：評価、改善

- ・授業デザインミーティングⅡ
- ⇒年計、単元・題材計画の評価と見直し
- ・授業づくりに関するアンケートⅡ

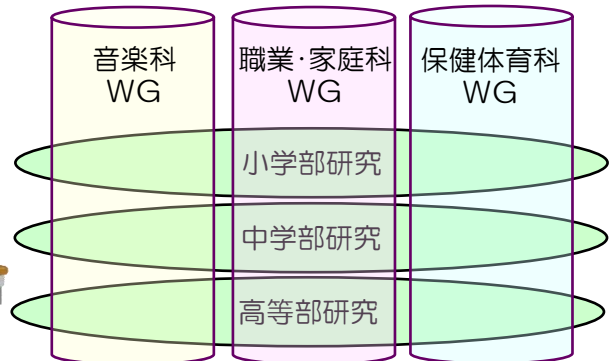


- ・教育課程検討委員会、キャリア推進委員会への反映



【年間の研究会】

教科WG:6回、学部WG:3回、学部研究:6回  
WGメンバー⇒授業デザインミーティング参加



【研究授業配信、研究成果配信】

YouTube（限定公開）によるオンデマンド配信

## 音楽科WG

### 児童生徒の実態

- ・全学部共通して、音楽が好き。
- ・好きなジャンルに偏りがあり、興味・関心が狭い。

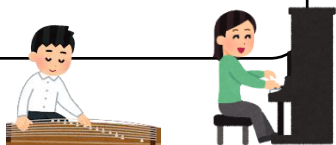


### 教育課程上の現状

- ・小：低・高の2グループ編成（週2単位時間）
- 中：1年、2・3年の2グループ編成（週1単位時間）
- 高：各学年の3グループ編成（隔週2単位時間）
- ・コロナ禍により、歌唱ができないなどの制限がある。

### 教育課程上の課題

- ▲指導内容の系統性
- ▲音楽科と各教科等とのつながりを意識した授業づくり
- ▲音楽の専門性や本物に触れる機会の設定



### 今年度（1年次）の研究の目指すゴール

- (1) 学習指導要領に沿った授業づくりの検討
- (2) 各学部における音楽科と各教科等を合わせた指導のつながりの検討
- (3) 各学部、学年の段階に合った学習内容の整理

### 内容と方法

- (1) 学習指導要領に沿った授業づくりの検討（小中学部、高等部：音楽科）
  - ①「音楽科」に関する児童生徒、指導の実態把握（4～6月）
    - ・指導内容のチェック【熊本大学附属特別支援学校「指導内容表」をツールとして活用】
  - ②授業実践（7月：全校授業研究会、11月：音楽科WG授業研究会）
    - ・授業デザインミーティングⅠ、年間指導計画の作成、授業研究会

- (2) 各学部における音楽科と各教科等を合わせた指導のつながりの検討
  - ①音楽科と日常生活や各教科等との関連の検討

日常生活

音楽科

各教科等を合わせた指導  
・各学部、学年での指導とのつながり

- ・学校生活の中につながる指導内容
- ・校内外の人材活用、本物に触れる機会
- ・生涯学習としての視点（高等部）

- ・音楽科と関連させた指導内容
- ・音楽科の学習成果を生かした学習活動の設定→日指、遊び、生単、体育、国算（数）、自立活動など

- ②「授業を見合う会」の実施

- (3) 各学部、学年の段階に合った学習内容の整理

- ①授業デザインミーティングⅡ、年間指導計画の評価、見直し
- ②年間指導計画の様式検討
  - ・指導内容の整理、小学校の年間指導計画や小学校、特別支援学校の教科書を参考にした様式の検討



(1) 学習指導要領に沿った授業づくりの検討

＜中学部2・3年生の授業実践より＞  
 高等部3年生の太鼓の練習を見学（鑑賞）

「共通事項」(図)を仲立ちとして「表現と鑑賞」を関連させた題材構成の検討

中学部の発表につなげる(表現)

(2) 各学部における音楽科と各教科等を合わせた指導のつながり検討

音楽をきっかけに主体的な行動を目指したい!

「音楽科」と「生活単元学習」をつなげた学習で生徒のモチベーションアップ!

(3) 各学部、学年の段階に合った学習内容の整理

＜題材名＞  
 「おとをあわせてたのしもう」  
 (リズム、楽器)

＜題材の目標＞  
 →1段階、2段階の目標、項目番号、共通事項  
 (例) 1段階：音や音楽を聴いて自分なりに表現する  
 2段階：身近な打楽器に親しみ音を出そうとする。  
 (A、器楽(A)) (共通事項) リズム、強弱

月	単元/題材名・学習内容	単元/題材の目標	評
10	歌お習		
11	○秋の歌		
12	・ドレミのうた(手話歌)		
1	・やまびこっこ	・歌詞の一部分を覚えて、歌ったり、歌詞に合わせて身体表現したりする。	・歌「ドレミのうた」でドを意識したことで、児童が増えた。「やまびこ遊びで掛け合い」でも同士掛け合いできた。「にじ」では
2	○冬の歌		
3	・にじ(手話歌)		
	リズム・楽器		
	・虫のこえ		
	・おもちゃのチャチャチャ		
	・サンタッタ	自分のパートのリズムや音階を覚えて楽器を鳴らし、友達と合わせて演奏する。	めて合奏したるため難しさを重ねることで上手に手遊び
	・楽器演奏の鑑賞		

＜評価欄＞  
 →実施事項や取り上げた曲名、楽器など  
 (例)「虫のこえ」虫の鳴き声の歌詞に合わせて楽器を鳴らした。  
 (鈴、トライアングル、タンブリン、タッチベル、キーボード)

指導の評価ではなく、実施事項をそのまま残し、「学習履歴」として使用できるツールになると良いなあ。

まとめ (○成果 ▲課題)

- 児童生徒の興味・関心の広がり  
 本物に触れる、校内外の専門性の活用
- 教師の授業づくりへの意識の高まり  
 「共通事項」を意識、「表現と鑑賞」を関連付けた題材構成
- 音楽科と各教科等を関連付けた授業の充実

- ▲学部内、学年のつながりが弱い  
 学習内容の系統性、年間指導計画の立て方
- ▲校内人材、外部講師の活用の仕方を具体的に児童生徒についての情報共有、指導への生かし方

次年度への提言

★各学部の学習内容の系統性の検討  
 学習内容の整理、学部内のつながり(学習内容)をより強化、学んだことを生かす場の設定

★校内外の人材を指導へより生かすために  
 効果的な活用の仕方、指導内容のより丁寧な情報共有

## 職業・家庭科WG

### 児童生徒の実態

- ・活動内容が分かると、自分の役割を果たそうとする(小)
- ・将来への見通しが曖昧だが、目標に向かって頑張ろうとする(中)
- ・自己肯定感が低い 働く意欲がある(高)

### 教育課程上の現状と課題 (○成果 ▲課題)

- (中)職業・家庭科の内容を「各教科等を合わせた指導」の中での扱い
- (小)今年度、未来へのスケッチの活用がスタート
- ▲中学部「職業・家庭科」の学習内容の整理
- ▲高等部実態差に応じた学習内容の精選

※未来へのスケッチ = キャリア・パスポート

### 今年度(1年次)の研究の目指すゴール

- (1) 学びの積み重ねが見える学習履歴の蓄積と活用
- (2) 学習内容参考一覧の活用と改善
- (3) 未来へのスケッチにおける小学部、中学部、高等部の学びのつながりの検討

### 内容と方法

#### 実態把握、単元計画の共有

- ・児童生徒の実態や課題について、各学部で情報交換
- ・「職業・家庭科」に関する授業の実態や課題についての情報共有
- ・授業デザインミーティングⅠの実施、年間指導計画の検討、作成

#### 教科WGでの検討

##### (1) 学びの積み重ねが見える学習履歴の蓄積と活用

「児童生徒が学びをつなげる授業づくりのための教師の支援(共通実践事項)」

- (小) 前時と学びをつなぐための導入の工夫、めあてや課題、活動内容の見える化、行動の言語化
- (中) 学びを実感できる体験(ワークシートにこだわらない)、学んだことを生かせる場面設定  
常に学んだことを意識できる掲示物(キーワード、時期)
- (高) 学習シートの蓄積 日常のあらゆる場面に学びをつなげる意識をもつ  
生徒との面談による成果と課題のすり合わせ

授業実践【小学部、中学部：生活単元学習 高等部：職業科、家庭科】

9月：職業・家庭科WG授業研究会(小学部、高等部)

11月：全校授業研究会(中学部)



##### (2) 学習内容参考一覧の活用と改善(中学部)

- ・3年間を見据えた年間指導計画の作成
- ・中学部職業・家庭科に関する学習内容参考一覧(R4)の検討、作成
- ・中学部「職業・家庭科」新設を見据えた取組

##### (3) 未来へのスケッチにおける小・中・高の学びのつながりの検討

未来へのスケッチの活用方法等についての情報交換、事例の共有



#### 評価・改善

- ・授業デザインミーティングⅡの実施
- ・年間指導計画の評価、改善
- ・児童生徒が学びをつなげる授業づくりのための検証(教師の支援の成果、課題、児童生徒の変容)
- ・職員アンケート

### 研究の実際

#### デザインミーティング、WG研究会

- ・児童生徒の実態、課題を各学部で情報交換
- ・単元構成、展開の工夫、教師の手立て
- ・年間指導計画、日々の授業実践



学部を超えた系統的な視点からの評価・改善につながった



(1) 学びの積み重ねが見える学習履歴の蓄積と活用

児童生徒が学びをつなげる授業づくりのための教師の支援の検証（一部抜粋）

	教師の支援		児童生徒の変容
	成果	課題	
小	声や姿勢などポイントを意識できるように動画で前時を振り返った	注目するポイントの精選の難しさ	動画を見て、自分の課題や目標に気付くようになった
中	日常でも学びを意識できるように、キーワードを教室や廊下に掲示した	学校と家庭での共通実践が必要	学んだ言葉の意味を正しく捉え、自分の行動と結び付けて、発言できた
高	学びをつなげるために教師が意識的に言葉掛けをした	学年間や学年を越えた教師間の共有	日常生活場面で生徒が学びを生かしている

(2) 学習内容参考一覧の活用と改善

**【学習内容参考一覧(R4)の検討、作成】**

**【中学部「職業・家庭科」新設に向けた取組】**

- 「職業・家庭科」週2時間の学習内容の設定
- 曜日や時期の固定
- 他学部での視点での検討

→学習内容や指導方法等が具体的に became

「職業・家庭科」新設のメリット

生徒

「何を学ぶか」が明確になる

見通しをもちやすい

教師

年間を通して計画的な指導

高等部につなげやすい

※保護者とも情報共有しやすい

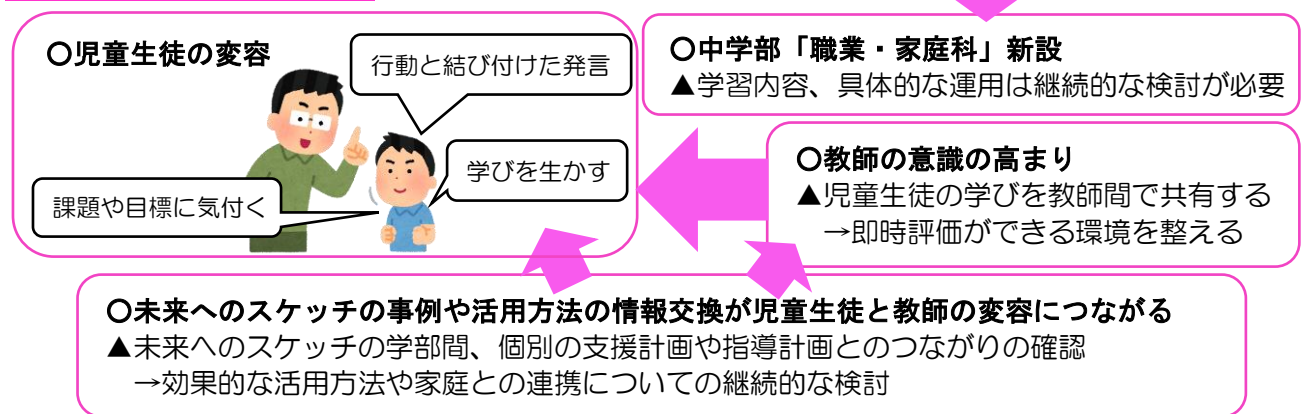
(3) 未来へのスケッチ（キャリア・パスポート）における小・中・高の学びのつながりの検討

- 小学部の作成がスタートし、様式を検討
- 各学部の活用方法や記載方法などの情報交換



教師と一緒に振り返り

まとめ（○成果 ▲課題）



次年度に向けての提言

- ① 中学部「職業・家庭科」の実践と検証**

  - 生徒の実態、生活年齢に応じたバランスのとれた学習内容
  - 曜日や時期などの弾力的な運用
  - 「職業・家庭科」を中心に小学部、高等部の授業を考える
- ② 各学部の「職業・家庭科」に関連した授業と、各教科等とのつながりの整理**

  - 児童生徒の学びを学校生活全体で捉える
- ③ 未来へのスケッチの活用方法と学部間のつながりの検討**

  - 小学部、中学部、高等部のつながりを意識した取組



## 保健体育科WG

### 児童生徒の実態

- 体を動かすことが好きな児童生徒が多い。
- 業間運動・体トレに時間いっぱい取り組み、繰り返すことで伸びが見られる。【小・中】
- 選択種目の設定が、運動が苦手な生徒の意欲につながっている。【高】
- ▲経験不足により、苦手な動きがある。
- ▲学校以外で運動する生徒が少ない。

### 教育課程上の現状と課題

- 【小】 低・高学年で週2単位時間と毎日15分の業間運動
- 【中】 週2単位時間と毎日25分の体トレ
- 【高】 週2単位時間（毎日15分の体トレ…日常生活の指導）
- ▲単元設定・学習内容の整理、「武道」の未実施
- ▲小・中・高や生涯スポーツ・運動習慣につなげる学習内容の工夫
- ▲保健体育の免許保有者数の学部による偏り

### 今年度（1年次）の研究の目指すゴール

(1) 学びの積み重ねが見える学習履歴の蓄積

(2) 学習指導要領に基づく学習内容の押さえ

(3) 全校体力テストの結果を生かした実践

(4) 校内・地域資源の活用

(5) 学部間・学年間等のつながりを意識した実践

### 内容と方法

A：実態把握、P：単元計画（4～5月） 授業デザインミーティングⅠ、体力テスト①

D：授業実践  
【小】 体育科  
【中・高】 保健体育科

(1) 学びの積み重ねが見える学習履歴の蓄積

(2) 学習指導要領に基づく学習内容の押さえ

(3) 全校体力テストの結果を生かした実践

(4) 校内・地域資源の活用

(5) 学部間・学年間等のつながりを意識した実践

※9月：全校授業研究会、11月：WG 授業研究会

C：評価、A：改善 授業デザインミーティングⅡ（8月）、教科WG研究会（月1回）  
体力テスト②（11～12月）

P：計画 学習指導要領に基づいた3年間を見据えた年間指導計画の作成

### 研究の実際

「学びをつなぐ」意識が高まった

※紫：教師の成果 赤：児童生徒の変容

#### 保健体育科WGでの情報交換・共有

（デザインミーティング、教科WG研究会）

#### 他学部の実践を知る機会

- ・昨年度の中学部の研究「授業づくりの5つの視点」の継続（成果をつなぐ）
- ・集団行動（高等部へつなぐ）
- ・指導のポイント（日々の授業実践へつなぐ）
- ・授業研究会（授業改善へつなぐ）
- ・段階表・学習シートを見合う会（学びの蓄積へつなぐ） など



#### 職員アンケート

項目	5月	増減
	12月	
⑩児童生徒は他教科に学びをつなげている	2.70	+0.44
	3.14	
⑪児童生徒は家庭生活や寄宿舎生活に学びをつなげている	2.60	+0.45
	3.05	



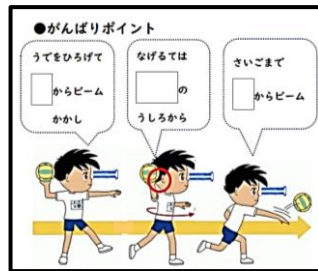
**(1) 学びの積み重ねが見える学習履歴の蓄積 ～学習シートの活用～**

【小低】サーキット運動の目標周回数と実際の回数の記入 → **目標を意識することで運動量増加**

【小高】ボール投げのポイントイラストや言葉で端的に表した「がんばりシート」の作成

→ **ポイントを意識して投げたり、口ずさんだりする児童増加**

2週	6/15	6/22	7/20
	4	10	4
	3	10	5
	5	5	3
	4	2	6
	9	1	5



**(2) 学習指導要領に基づく学習内容の押さえ**

【中・高】  
**武道（剣道）を実施**  
 【全学部】  
**3年間で学ぶ内容を整理した指導計画の作成**



**(3) 校内体力テストの結果を生かした実践**

【小】苦手な動きを授業や業間運動の学習内容に関連付け

→ **できる動きが増え、達成感・意欲が高まった**

【中】1～3学期で1回ずつ計3回実施

→ **計測の仕方が分かり、数値の向上で体力的な成長の実感**

【高】得意・不得意を生徒が分析、長期休みに「体力アップ」の宿題 → **運動習慣のきっかけづくり**



**(4) 校内・地域資源の活用**

- ・地域の人材…ダンス講師、ネオホッケーチーム、ジムトレーナー、ブラウブリッツ秋田等
  - ・校内の人材…【小高】の授業へ【中】の教員が参加、剣道、ヨガ、養護教諭等
  - ・地域より借用…マット、タイヤの打ち込み台と模擬刀、ネオホッケーフェンス
- **意欲の向上、技術の習得**  
**専門的な知識・動き等を学び、指導に生かす**



**(5) 学部間・学年間等のつながりを意識した実践**

・集団行動、ラジオ体操【小～高】

→ 業間運動や体トレで **正しい動きが定着(毎日の確認)**

・【高】卒業後の余暇につながる学習内容の設定

～自己選択種目～

→ 運動が苦手な生徒も **最後まで取り組み、効果・達成感を実感**

・他学部の教員が授業に参加

→ **次の学部につながる学習内容の設定・学習シートの作成**



**まとめ（○成果 ▲課題）**

○ **苦手な動きや身に付けさせたい動きを意図的に学習内容に設定**

○ **校内・地域資源（人材）の活用**

→ 運動技能や意欲の向上

○ **学習シートの活用**

→ 運動ポイントの確認、目標を意識して挑戦、できた実感の積み重ね



○ **武道の実施**

▲ **学習指導要領に基づく学習内容の押さえ**

→ 3年間を見据えてバランスよく計画

▲ **体力テストの実施時期や活用方法の検討**

→ 変化が実感できる内容や時期の検討、業間運動や体トレとの関連付け

**次年度に向けての提言**

① **児童生徒自身が自分の成長を実感できる授業づくり**

- ・ 授業と業間運動や体トレの関連付け
- ・ 体を動かす楽しさを味わえる授業づくり
- ・ 成果の見える化



② **学びを積み重ね、運動習慣や生涯スポーツへつなげる学習内容の工夫**

- ・ 3年間を見据えた学習内容の検討
- ・ 学校生活や家庭でも運動する習慣



③ **校内・地域資源の活用の継続**

- ・ 保体免許所有教員・校内人材の弾力的な活用
- ・ 地域スポーツチームとの計画的な交流



## 寄宿舎 ー 日常の生活指導 ー

### 生徒の実態

- ・自分で考え、身に付けた力を生かし、寄宿舎で生活している。
- ・寄宿舎で身に付けた力を、家庭や学部などで十分に活用できてない。

### 生活指導の現状と課題

- ・日常の生活指導グループを中心に勉強会や日々の生活指導を実施。
- ▲生徒が活用できるテキストがない。
- ▲職員主導の勉強会になりやすい。

### 今年度（1年次）の研究の目指すゴール

- (1) 生徒用テキストブックの作成と活用方法の提示      (2) 生徒主体の勉強会の計画実施

### 内容と方法／研究の実際

#### (1) 生徒用テキストブックの作成と活用方法の提示

5月～7月：指導内容の整理

	必要性	基本
身なり	洗濯物の仕方 衣類の調整 髪型 メイク	サイズ感 交換時期 清潔感 ヘアケア

「学びをつなぐ」を視点に  
必要性・基本・応用に分けて整理

7月～12月：ワークショップ



作成に向けて内容、様式、  
活用方法の検討

#### 《作成のポイント》

- ・家庭、学部、卒業後も使える
- ・勉強会や日々の生活指導で活用できる
- ・応用は、生徒が知りたいことを教える
- ・いつでもカスタマイズできる

12月～2月：テキストブックの作成



- ・課題が焦点化され、職員間で共有できた
- ・系統性のある生活指導の大切さを再確認



#### (2) 生徒主体の勉強会の計画実施

6月：ワークショップ

実施方法・日々の指導へのつなぎ方の検討



事前の聞き取り、実態把握、  
選択制、体験型、教え合う  
などを取り入れてみよう！



ひげそり

家や学校でも  
やってみよう！



生徒

9月～2月 勉強会の実施・評価・改善

ひげそり	体験型で実施
肌の手入れ	生徒が講師となる
食事	事前に生徒にアンケートをとり実施
掃除	2つのテーマからの選択制



肌の手入れ

次につなげる  
日々の指導を



職員

### まとめ（○成果 ▲課題）

- 職員間の意識の共有
- 生徒の意欲の高まり  
指導内容の整理とテキストブックの作成  
生徒主体の勉強会の効果
- ▲生徒一人一人の生活力を育てる生活指導の検討

### 次年度に向けての提言

- ☆「学びをつなぐ」生活指導の実践
  - ・テキストブックを活用した勉強会、生活指導
  - ・学部、家庭と連携した指導
- ☆身に付けた力を生かす場面・環境づくり
  - ・生徒の自治会活動、係活動等の見直し

道川分教室 一人一人の笑顔があふれ、きらり輝く授業を目指して  
—道川分教室のこれまでの実践を生かしながら—

「ゆり支援学校道川分教室」は、今年度をもって閉室し、その教育は秋田きらり支援学校へ引き継がれる（移管する）ことになる。道川分教室は、前身である本荘養護学校時代から、病院への訪問教育における授業実践を積み重ねてきており、今に引き継がれている。この間の実践で得た知見等を生かしながら、全生徒が学びを実感し、笑顔あふれる授業を目指して授業づくりを行った。

生徒の実態

- 重度の肢体不自由と知的障害を有する
- 日常生活全般において医療的ケアや生活支援が必要
- 周囲からの働きかけに表情や簡単な言葉、微細な身体の動き等で気持ちを表す

目指す姿

- 学びを実感し自分の気持ちを精一杯あらわす姿

笑顔があふれ  
きらり輝く姿

内容と方法 / 研究の実際

過年度研究成果である授業づくりに係る各種ツール（以下に「※」で表記）の活用と、5つの観点に基づく指導支援の工夫を生徒全員の個別学習で行い、汎用化を図った。

授業づくり

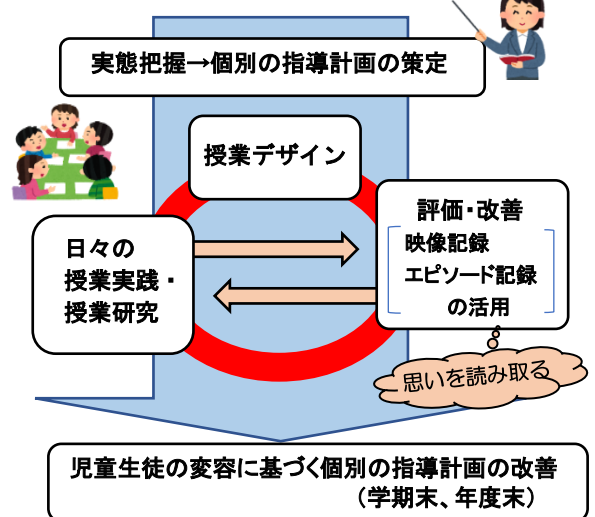
- ① チームによる授業づくり検討会
  - ・実態把握～アセスメントチェックリスト※  
道川版自立活動の流れ図※
  - ・授業構想の検討～道川授業デザインシート※
  - ・授業改善の視点検討～映像記録、エピソード記録※
- ② 5つの観点に基づく指導・支援の工夫
  - ・流れのある題材計画
  - ・言葉掛け
  - ・姿勢づくり
  - ・教材・教具
  - ・授業展開

児童生徒が主体的  
に活動するための  
わかりやすい  
状況づくり

授業づくりを支える研修

- ・専門性の向上と安全・安心な学習

チーム(全職員)での授業づくり・授業改善  
「授業づくり検討会」



まとめ

【生徒の変容】

- 個々の表現の仕方で気持ちをあらわす姿が見られた
  - ・「分かってうれしい」等自分の言葉で
  - ・タブレット端末やスイッチ教材をタイミング良く押して
  - ・「うれしい」「もっとやってみたい」気持ちを笑顔や不満気味の表情で
  - ・教師からの誘いかけに対して元気に挙手をしたり、身体の一部を動かしたりして

【「学びを実感し自分の気持ちを精一杯あらわす姿」を引き出すための授業づくりのポイント】

- チームによる授業づくり
  - ・多角的な視点で実態把握、授業デザイン、評価・改善
- 5つの観点に基づく指導・支援の工夫
  - ・流れのある題材計画～題材のゴールを明確にすることによる学びの蓄積とステップアップ
  - ・言葉掛け～教師の意図が伝わる言葉掛け、生徒の気持ちのフィードバック
  - ・姿勢づくり～本時の学習活動と関連する動きを意識できる導入の工夫、ポジショニング、OT・PTとの連携
  - ・教材・教具～五感に訴え個々の表現方法に応じた工夫、個々の興味・関心や生活年齢等に応じた工夫
  - ・授業展開～「動」と「静」のメリハリのある活動設定、めあてが分かる導入の工夫とできたことが分かるまとめの工夫

【今後に向けて】  
授業づくりを支える  
新たな体制づくり



研究の実際

教科WGを柱とした研究の推進 ○成果 ▲課題

- 各教科の免許保有者や学部を越えた多面的な視点からアドバイスをもらった。
- 各学部を知ること、系統的な指導につながった。
- ▲研究会が煩雑になり、見通しがもてなかった。

音楽科 WG

- 校外外の人材活用による本物体験
- 各教科等との関連の充実
- ▲活用できる年間指導計画の検討

職業・家庭科 WG

- 学びをつなげる教師の意識向上
- 中学部職業・家庭科の新設
- ▲学びの積み重ねの検討

保健体育科 WG

- 他学部へのつながりの確認
- 人材活用による意欲と体力向上
- ▲学習指導要領の押さえ

○次の学習や他教科、家庭生活に学びを生かす児童生徒の姿が増加した。  
 ⇒「学びをつなぐ」支援は、児童生徒と教師の様々な「見通し」につながり、児童生徒の「何を学ぶか」を明確にした。「見通し」は、学習意欲の向上と指導の充実につながると推察された。  
 ▲児童生徒の学びを生かす、つなげる姿はまだまだ十分な状況とは言えない。  
 ▲キャリア・パスポートを活用していく上で、小学部での目標と評価の共有が課題である。  
 ⇒教師と児童生徒のさらなる「見通し」をもたせるしかけが必要である。

まとめ

各WG	次年度(2年次)に向けての提言
音楽WG	各学部の系統性を図る 学習内容の検討 校外外の人材を効果的に生かす工夫の検討
職・家WG	中学部 職業・家庭科の実践と検証 学部間の学びのつながりの検討
保体WG	運動習慣や生涯学習へ学びをつなげる 学習内容の工夫 校内・地域資源(人材)の活用の充実

授業づくりに関するアンケート結果

カテゴリー	項目	全体	増減
実態把握	①子どもの実態把握	3.27 3.34	+0.07
	②目指す姿の明確化	3.16 3.33	+0.17
授業づくり・授業改善	③各教科等の指導内容の見通し(教師)	3.18 3.36	+0.18
	④各教科等の学習内容の見通し(児童生徒)	2.79 3.13	+0.34
	⑤年間指導計画の見直し	3.10 3.23	+0.13
	⑥発問や板書の充実	3.10 3.23	+0.13
	⑦めあてカードの提示の工夫	3.10 3.23	+0.13
	⑧めあてと振り返りの整合性	3.13 3.30	+0.17
	⑨学びをつなぐ支援の工夫(教師)	2.98 3.33	+0.35
	⑩学びを次の学習へ生かす(児童生徒)	3.02 3.22	+0.20
	⑪学びを他教科につなげる(児童生徒)	2.69 3.02	+0.33
	⑫学びを家庭生活等へ生かす(児童生徒)	2.53 2.92	+0.39

【その他】

※赤枠：3.3以上、0.3以上の伸び  
 青枠：3.0未満 黄枠：0.5以上の差

項目	小学部	中学部	高等部
⑬児童生徒と願いや目標の共有(キャリア・パスポート)	2.48 2.29	2.56 3.00	2.74 3.39
⑭児童生徒と評価の共有(キャリア・パスポート)	2.19 2.43	2.50 2.90	2.57 3.30
⑮教育課程を意識している	2.67 2.90	3.00 2.90	2.61 3.04

※上段はI(5月)、下段はII(12月)の平均値の結果  
 評価点⇒4：よくしている 3：ときどきしている  
 2：あまりしていない 1：ほとんどしていない

【自由記述】(キャリア・パスポートに関する抜粋)

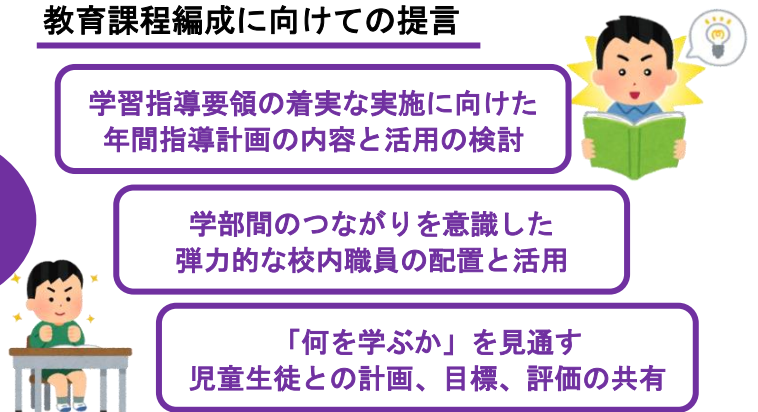
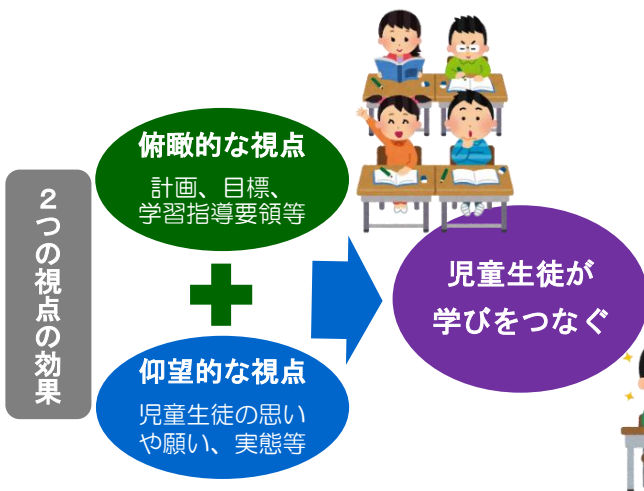
- ・初めての取組であったが、積み重ねることによって目標を意識することにつながると感じる(小)。
- ・未来へのスケッチを使って振り返りの項目を挙げて毎日取り組んでいるが、担任だけでなく児童自身の見直しの機会を作っていきたい(高)。

教育課程編成に向けての提言

学習指導要領の着実な実施に向けた  
 年間指導計画の内容と活用の検討

学部間のつながりを意識した  
 弾力的な校内職員の配置と活用

「何を学ぶか」を見通す  
 児童生徒との計画、目標、評価の共有









秋田県立ゆり支援学校研究紀要『研究ゆり』 第24号 別冊

印刷・発行 令和5年3月

発行 秋田県立ゆり支援学校

〒015-0885 秋田県由利本荘市水林456-3

TEL 0184-27-2630

FAX 0184-22-8706

Mail [yuri-s@akita-pref.ed.jp](mailto:yuri-s@akita-pref.ed.jp)

HP <http://www.yuri-s.akita-pref.ed.jp>